

寄贈図書リスト

私たちは暗黒宇宙から生まれた，福井康雄，四六判，208 p, 1,333 円，日本評論社
 テレビでかんたんに『プラネタリアム』が楽しめる星座入門，(株)アストロアーツ編集・発行，A4 変形判，127 p, DVD 付録，1,980 円，(株)アスキー
 地球が丸いってほんとうですか？，日本測地学会監修，四六判，277 p, CD, 1,200 円，朝日新聞社

2004 公開シンポジウム講演収録集「ビッグバン」，佐藤勝彦編集，B5 判，179 p, クバプロ
 天文台へ行こう，古在由秀，新書判，174 p, 780 円，岩波書店
 アインシュタイン 16 歳の夢，戸田盛和，新書判，183 p, 740 円，岩波書店
 雲はなぜ落ちてこないのか，佐藤文隆，四六判，236 p, 2,300 円，岩波書店
 100 歳になった相対性理論，福江 純，四六判，254 p, 1,600 円，講談社

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切，翌月に発行の「天文月報」に掲載します。校正をお願いしておりますので，締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお，原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく，以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など），2. (1) 所属部門・所属講座，(2) 勤務地，3. 専門分野，4. 職務内容・担当科目，5. (1) 着任時期，(2) 任期，6. 応募資格，7. 提出書類，8. 応募締切・受付期間，9. (1) 提出先，(2) 問合せ先，10. 応募上の注意，11. その他（待遇など）

国立天文台理論研究部上級研究員

1. 上級研究員（従来の助手）1 名
2. (1) 理論研究部
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学の理論的研究
4. 全国の理論研究者との関係を保ちつつ，観測天文学も視野に入れて，理論天文学の研究を推進する若手研究者を求めます。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期 5 年。5 年後に資格審査の結果，任期のない主任研究員になることが可能です。
6. 大学院修士課程修了，またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書，(2) 研究歴（これまでの研究内容の

概要），(3) 研究論文リスト（査読論文とそれを区別し，共著の主要論文には役割分担を記すこと）および主要論文（3 編以内）別刷，(4) 研究計画書，(5) 本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先，または推薦書，(6) E-mail アドレス

8. 2005 年 4 月 28 日（木）必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台理論研究部 主任 杉山 直
Tel: 0422-34-3741
E-mail: naoshi@th.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「理論研究部上級研究員人事応募書類在中」と朱書き，郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営会議において行います。

名古屋大学太陽地球環境研究所教員

1. 助手 1 名
2. ジオスペース研究センター
4. ジオスペース研究センターは，太陽から地球大気に至る空間のエネルギーと物質の輸送・循環過程を系統的に解明し，所内研究部門や所外研究者と協力して，研究領域をまたぐ共同研究の実施に中心的役割を担うことを目指しています。今回の人事公募で

は、本センターの助手として本センターの目的を遂行し、シミュレーション・データ解析や観測的手法によるジオスペース研究を進展できる方を求めます。併せて、大学院工学研究科の協力講座に参加し、学生の教育にも熱意を持って取り組んで頂ける方を希望します。本センターの目的、組織、研究内容、プロジェクト等についてはホームページ (<http://center.stelab.nagoya-u.ac.jp/>) を参照下さい。

5. 決定次第、できるだけ早い時期
6. 大学院修士課程修了又は同等以上
7. (1) 履歴書, (2) 今までの研究のまとめ, (3) 業績リスト, (4) 主要論文別刷, (5) 研究計画書, (6) 2名の方からの推薦書又は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面。なお、提出された書類は返却しません。
8. 平成17年5月13日(金)(必着)
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所長
(2-1) 当該センターの状況及び勤務地等について
〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
ジオスペース研究センター長 小島正宜
Tel: 0533-89-5175 Fax: 0533-85-3882
E-mail: kojima@stelab.nagoya-u.ac.jp
ジオスペース研究センターマネジメント部
教授 荻野瀧樹
Tel: 0533-89-5207 Fax: 0533-84-8806
E-mail: ogino@stelab.nagoya-u.ac.jp
(2-2) 提出書類について
〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所庶務掛
Tel: 0533-89-5151
10. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。
封筒の表に「教員公募書類在中」と朱書きし、書留にて郵送願います。

独立行政法人理化学研究所平成18年度 基礎科学特別研究員公募

- 募集分野：物理学、化学、生物科学、医科学、工学の各分野で、理化学研究所で実施可能な研究。
- 応募資格：平成18年4月1日現在35歳未満で、自然科学の博士号取得者又はこれと同等の能力を有すると認められる者。

※日本国に永住権を有さない外国人にあっては、上記に加え次の条件を満たす者。①応募日現在日本国に在住している者。②日本国の大学院博士課程を修了(見込を含む)し、博士号を取得(見込を含む)の者。

- 応募要項頒布：頒布開始は4月上旬予定。
応募要項の請求は、下記FAX又はE-mailへ①郵便番号②住所③氏名(漢字)④氏名(カタカナ)を記入し、送信すること。※要項代は無料
- 応募願書の締切：平成17年5月31日(火)必着
- 着任時期：平成18(2006)年4月1日
- 問い合わせ先：〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1
独立行政法人理化学研究所研究調整部
研究交流課基礎科学特別研究員担当
TEL: 048-467-9268(直通) FAX: 048-463-3687
E-mail: address: wakate@riken.jp
- その他：本件は当研究所予算の成立を前提としており、その事情により変更がありえる。

人事結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

東京大学大学院理学系研究科教官 地球惑星科学専攻助教授

1. 2003年12月(96巻12号)
2. 吉川一朗(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部助手)
3. 2005年4月1日着任

北海道大学低温科学研究所教員

1. 2004年9月(97巻9号)
2. 田中秀和(東京工業大学理工学研究所)
3. 2005年3月1日

共同利用・共同研究

自然科学研究機構国立天文台共同研究 公募のご案内

自然科学研究機構国立天文台では以下の要領で平成17年度共同研究等の公募をします。詳細及び申請用紙

は国立天文台研究交流委員会 HP (<http://www.nao.ac.jp/pio/kouryuu/index.html>) からダウンロードできます。

1. 公募事項・内容

- (1) 研究会・ワークショップ：国立天文台研究会及び同ワークショップ。
 - (2) 共同研究：国立天文台の研究教育職員と天文台外の研究者により特定の研究課題について共同で行われる研究。
 - (3) 共同開発研究：国立天文台研究教育職員と共同した観測・実験に関わる新しい装置等の開発・製作、また、より基礎的開発研究についての共同研究。
2. 申込資格：国・公・私立大学及び国・公立研究所等の研究者又はこれに準ずる者。（大学院在学中の者は指導教官と連名で申し込んでください）
3. 申請方法：所定の様式による申請書1部及び申請者の所属機関の長（学部長、附置研究所等の部局長）による承諾書を提出してください。
4. 申込締切日：平成17年4月25日（月）期限厳守・必着
5. 申込書提出先及び問合せ先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
自然科学研究機構国立天文台事務総務課
研究支援係、Tel: 0422-34-3659・3772

研究会・集案案内

第3回「坂田・早川記念レクチャー」 記念講演会

坂田・早川記念レクチャー制度は、坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえつつ、未来の発展につながるよう、次世代の優れた研究者を育成することを目的として設けられました。この趣旨に沿って、名古屋大学大学院理学研究科と名古屋市科学館の共催による記念講演会を毎年恒例行事として開催しています。今回は、スーパーカミオカンデを構築し、ニュートリノ研究に革命をもたらした戸塚洋二氏をお招きして、「地底から宇宙をさぐる」と題してお話いただく予定です。奮ってご参加下さい。

日時：2005年4月23日（土）14:30～17:00

会場：名古屋市科学館

講演題目：地底から宇宙をさぐる

講演者：戸塚洋二（高エネルギー加速器研究機構長）

対象：高校生およびそれ以上

定員：300名、多数の場合は抽選

受講料：無料

申込方法：

- 1) 講演会ホームページ <http://flab.phys.nagoya-u.ac.jp/sakata-hayakawa/> からお申し込みいただくか、
- 2) 往復はがきに、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入し、返信部分に申込者の宛名を書いて、〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17-1 名古屋市科学館「坂田・早川記念レクチャー」係まで郵送してください。

申込締切：2005年4月9日（土）

問合せ先：E-mail: shlecture@flab.phys.nagoya-u.ac.jp

メール以外では、特に講演内容に関しては、名古屋大学大学院理学研究科 F 研 中村光廣

Tel: 052-789-2443,

申込方法・会場等に関しては、

名古屋市科学館天文係 野田 学

Tel: 052-201-4486 まで。

会務案内

【理事会議事録】

日時：2005年1月8日（土）11:00～17:00

場所：国立天文台南研大会議室

出席者：祖父江, 井上, 花岡, 杉山, 北本, 関井, 蜂巢, 和田, 百瀬, 田, 成相, 馬場, 浅田

欠席者：なし

有効委任状提出者：黒田, 富田

他に、旧理事として、松田, 若松, 郷田, 土橋, 土居, 佐藤, 花見が出席した。また、東條事務長が出席した。

議事に先立ち、署名人を選出した。

議長：祖父江義明

署名人：杉山 直, 花岡庸一郎

報告

1. 前回議事録の確認（資料1）
杉山理事より前回（2004年9月21日）の理事会議事録が報告され、原案通り承認された。
2. 災害援助法適用地域の特別処置の確認（資料2）
関井理事より新潟中越地震および台風23号被害地域についての会費免除について報告があった。3名から免除の申し出を受けており、今後同様の処置を行っていくことをアナウンスした。

3. 日本学術会議会員候補者推薦内規の廃止 (資料3)

杉山理事より、内規の前提となっている学術会議側の会員候補者推薦方法が変更となったことに伴い内規が無意味となってしまっているため、内規そのものを廃止することが提案され、評議員会に内規の廃止を提案することが承認された。昨年場合は、学術会議からの通知で天文学会は候補者8人の情報を連絡するのみとなった。このため内規に従う候補者決定は不可能となり、評議員の間での議論で、理事、評議員による選挙を行うことを決めた。選挙管理委員長立会いの下、開票を行い、その結果に基づいて8名の候補者の研究者情報を学術会議に通知した。

4. その他

(1) 教育問題懇談会について

松田前理事長より、前回の年会をきっかけとした評議員会の議論にもとづき、教育問題懇談会を組織したことについて報告があった。既に1回会合を開催しており、1月9日に国立天文台にて高校教育での天文教育についてのシンポジウムを開催、2月に小・中学校での天文教育についてのシンポジウムを予定、また3月の年会での教育フォーラムでの講演を初等中等教育の研究者に依頼、など活動を行っている。これらの内容は月報に掲載する予定で、またその報告を独立の冊子にしてはどうかという提案もあった。

(2) 次回以降の年会について

- 明星大学がホストとなる2005年春季年会について成相理事より報告があった。明星大学内の会場確保状況について紹介があり、アルバイトは雇用選考中、機器類・インターネット室も準備中とのことである。公開講演会については、平山 淳氏・佐藤勝彦氏に講演を依頼、また日野市及び多摩市教育委員会、京王電鉄からの後援が決まっている。講演者のうち佐藤勝彦氏は、世界物理年の行事であることも念頭においた人選である。
- 北海道大学がホストとなる2005年秋季年会について馬場理事より報告があった。日程は2005年10月6日(木)～8日(土)、場所は札幌コンベンションセンターにて開催する。懇親会は札幌ビールファクトリーを予定している。公開講演会は10月9日に行い、講師は、世界物理年の一環としての行事という位置付けであることを念頭に、佐藤文隆氏・土居 守氏に依頼している。
- 和歌山大学がホストとなる2006年春季年会に

ついて杉山理事より報告があった。2006年3月27日(月)～29日(水)に開催、富田理事と、尾久土氏を中心となって準備を行っている。公開講演会は3月26日(日)に和歌山県民文化会館にて開催を予定である。

- 九州国際大学がホストとなる2006年秋季年会について、浅田理事より資料にもとづいて準備状況の詳細な報告があった。

(3) 世界物理年日本委員会について

松田前理事長より世界物理年日本委員会について報告があった。今年はアインシュタインの奇跡の年から100年を記念して国連の決定で世界物理年となっている。日本でもいくつかの学会から担当者が集まって日本委員会としての取りまとめを行っている、頻繁にひらかれるこの関係の会議に天文学会も参加している。委員会の活動としては3月21日に春休みイベント(科学技術館)を予定されている他、特に物理オリンピックへの参加を見据えて、国内予選に相当するイベントを夏に行うことなどを予定している。学会としては法人会費10万円を支払う予定である。

1月7日に第8回運営委員会があり、これについて祖父江理事長より、趣意書ができこれからお金を集めること、1月15日からのパリでのイベントに学生を送ること、等を委員会として予定していることが報告された。ただし、天文学会の方針として、世界物理年には学会の行事の中でできるだけ協力はするが、資金については日本委員会に依存も貢献もせず、独立で行うことが確認された。今後、松田前理事長が対応窓口として委員会等に出席するが、必要に応じて祖父江理事長、あるいは井上副理事長、杉山理事、田理事が対応する。

(4) 天文月報からの報告

和田理事より綴じ方を変更した(背表紙つき)ことについて紹介があった。また、ホームページを全面リニューアル予定であること、バックナンバーの電子化を考えていることについて資料にもとづき報告があった。2003年半ば以前は電子化のためにはスキャンが必要であり、それ以降は既にpdf版があるものの印刷会社に権利があるため学会で使用するには買取が必要であり、いずれにせよ費用がかかる。この電子版はどこまでオープンにするか、オープンにする場合は著作権はどうなるのか、等議論があった。

(5) 最先端天文学を学ぶ研修会の開催に向けて

杉山理事より「最先端天文学を学ぶ研修会の開

権に向けて」趣意書の紹介があった。シカゴ大学での例を参考に、科学の普及に貢献するための試みである。学会へ講師派遣を依頼する予定があるかという議論があった。

議 題

1. 新入会員の承認（資料4）
杉山理事より、資料に基づき、新会員の入会が承認された。あわせて、退会者の報告があった。
2. 2004年度事業報告書案（資料5）
杉山理事より事業報告書案について説明があり、質疑応答の後承認された。なお、寄付を頂いておこなっている事業については、寄付者のご意向を担当者が変わっても申し送りできるよう取り計らうこととなった。
3. 2004年度決算報告書案（資料6）
関井理事より決算報告書案について説明があり、質疑応答の後承認された。
4. 2004年度監査報告書（資料7）
杉山理事より、2005年1月6日に実施された監査の結果正当であることが認められた旨の報告書について説明があった。
5. 正会員（学生）等の会費見直しについて（資料8）
関井理事より、正会員（学生）と準会員の会費見直し（値下げ）の提案について説明があった。印刷費縮減などの努力の結果ここ最近では学会会計が黒字になっていることに鑑み、正会員学生を13,000円から10,000円へ、準会員を8,000円から7,000円へ変えるという提案である。この趣旨は、研究に携わる学生はできるだけ正会員に、一方広くアマチュアの人を準会員にする、ということである。研究者が正会員になるメリットは明確にすべきで例えば学会での講演は正会員が有利になるようにすべきである、との議論があった。準会員は5,000円にして裾野を大きく広げるべきという意見もあったが、あまり下げると財政にも影響があり、他の事業の拡充もできなくなる、という指摘もあった。評議員会への報告として、理事会の議論の結果提案のままの金額に変更することに賛成が多く、ただし準会員を5,000円まで下げるべきという意見もあった、と紹介することとした。
6. 創立100年事業WGの立ち上げについて
杉山理事より創立100年事業WGの立ち上げの提案があった。事業としてひとつは天文学会100年史のようなものを考えており、尾崎洋二氏に編纂のとりまとめをお願いすることについて内諾を得ている。全体の事業（100年史、記念切手、記念式典＋シ

ンポジウム、月報100年記念号といった案がある）をワーキンググループを組織して（理事長・副理事長、杉山理事、尾崎氏、若松前副理事長）とりまとめて活動を行っていくこととした。

7. Asian-Pacific Journal について

蜂巢理事より経緯の説明がされた。Asian-Pacific Journal の刊行が検討されており日本の参加も期待されているが、PASJをAsian-Pacific Journalへ融合していくことについては理事の間では反対意見が多かった。ただしまだ未知数の部分が多く、とりあえず蜂巢編集長と有本顧問がこれに関するミーティングには参加することになっている。いずれ、学会員に意見を伺う機会を設ける。

8. その他

(1) 2007年以降の年会開催地について

杉山理事より春は東海大学、秋は岐阜大で開催する案について説明があり、そのとおり決定した。2008年春は天文学会100年にあたるので東京近辺での開催を想定しており、今後具体的な担当者を決定する。2008年秋は岡山理科大が立候補している。

(2) 衛星設計コンテスト（資料9）

郷田前理事より衛星設計コンテストに学会として主催または共催に加わるよう要請されていることについて報告があった。今回はとりあえずオブザーバー参加となっている。現在郷田前理事が窓口となって対応しているが、学会として現役理事の中に担当を設けて欲しいとの提案があり、北本理事がすることとなった。

(3) PASJのweb公開

web版の古いものについてのアクセス制限の撤廃について蜂巢理事から提案があった。最近の2年間程度はアクセスが多いが、それ以前のアクセスが少ないものについて制限を撤廃しても問題ない。アクセス制限はすべて撤廃した方がサーキュレーションがよくなり論文としての価値があがるという意見もあったが、それによって購読をやめられると補助金が廃止されるなど雑誌として成り立たなくなる可能性も出てくる。方向性としては1年程度で制限をはずす、という意見が大勢であった。雑誌によっては論文ごとにはばら売りするという方法を採用しているところもある、との指摘もあった。

(4) 2005年春季年会特別講演について

Gemini 副所長がたまたま春季年会の折に来日するため、その講演を年会中に行うことについて唐牛氏より推薦がある旨土居理事より報告があっ

た。ただし推薦が来た時期が遅く、学会中の日程がすでに隙間なく詰まってきたりして時間的に厳しいため、理事会としてはお断りする旨決定した。

(5) 次回以降の理事会日程

次回は春季年会中、3月28日の昼休みに開催し、次々回は7月2日(土)11:00より国立天文台(三鷹)で開催することとなった。

2005年1月27日

議長 祖父江義明 ㊟
 署名人 杉山 直 ㊟
 署名人 花岡庸一郎 ㊟

【評議員会議事録】

日時: 2005年1月22日(土)11:00~16:00

場所: 国立天文台三鷹南研大会議室

出席者: 井上, 太田, 岡村, 加藤, 小山, 柴田, 須藤, 千田, 福井, 舞原, 牧島, 吉井, 安東, 家, 梅村, 大橋, 小杉, 佐藤, 観山, 山本 以上20名

有効委任状提出者: 海部, 高橋, 高原, 池内, 谷口 以上5名

他に理事会から, 祖父江理事長, 花岡, 杉山, 北本, 関井理事, 及び山岡天体発見賞選考委員長, 東條事務長が参加した。

議事に先立ち, 議長及び署名人を選出した。

議長: 小杉健郎

署名人: 観山正見, 須藤 靖

(付記: 評議員会当日は署名人として観山評議員ではなく加藤評議員が選出されたが, 会議後議事録への署名の前に加藤評議員が日本天文学会を退会し署名人を辞退したため, 観山評議員を新たに署名人とすることで評議員が合意した)

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2004年9月22日)の評議員会議事録が報告され, 承認された。

2. 災害援助法適用地域の特別措置の確認(資料2)

関井理事より, 新潟中越地震および台風23号被害地域に在住もしくは勤務の会員を対象として申し出により2005年度の会費を免除する措置をとり(月報12月号に投げ込み及び学会WWWページにて周知), 3名から免除申請がありこれを認めたこと, 今後も同様な事態に対しては同様の措置をとることにしたい旨の報告があった。

3. 教育問題懇談会について

祖父江理事長より, 前回の年会をきっかけとした

評議員会の議論にもとづき, 教育問題懇談会を組織したことについて報告があった。天文教育に関し今後の教育システムや学習指導要領への提言を行うことを目的としており, 何らかの声明を今年中に出したいと考えている。この1~3月には現状認識を深めるためのシンポジウムを開催している。なお, 教育問題懇談会が設置されたことに伴い, 同懇談会と教育担当理事, 天文教育委員会との役割と権限の分担があいまいになっており, 一部に混乱が見られることに注意喚起の発言があった。

4. 世界物理年日本委員会について

祖父江理事長より世界物理年日本委員会について報告があった。今年はアインシュタインの奇跡の年から100年を記念して国連の決定で世界物理年となっている。日本でもいくつかの学会から担当者を出し, 科学技術館に事務局をおいて日本委員会としての取りまとめを行っている。天文学会も参加しており, この関係の会議に出席している他, 学会としていろいろなイベントへの講師の派遣, ブースの設置等を行うことを検討している。今後も松田前理事長が対応窓口として委員会等に出席するが, 必要に応じて祖父江理事長, あるいは井上副理事長, 杉山理事, 田理事が対応する。学会としては, 日本委員会とは財政的には独立性を保ちつつも, 学会の行事の機会等を活用し世界物理年にできるだけ協力を行っていく。

5. 次回以降の年会について

杉山理事より以下のように報告された。

- 明星大学がホストとなる2005年春季年会については具体的な準備が進んでおり, 公開講演会については平山 淳氏・佐藤勝彦氏に講演を依頼しており, 後援頂く団体も決まっている。
- 北海道大学がホストとなる2005年秋季年会については, 日程は2005年10月6日(木)~8日(土), 場所は札幌コンベンションセンター, 懇親会は札幌ビールファクトリーを予定している。公開講演会は10月9日に行い, 講師は, 世界物理年の一環としての行事という位置付けであることを念頭に, 佐藤文隆氏・土居 守氏に依頼している。
- 和歌山大学がホストとなる2006年春季年会については, 日程を2006年3月27日(月)~29日(水), 公開講演会はそれに先立って3月26日(日)に和歌山県民文化会館にて開催, という案で検討中である。
- 九州国際大学がホストとなる2006年秋季年会については, 9月19日(火)~21日(木)を日程の候

補として検討を行っている。

- 2007年春は東海大学で、2007年秋は岐阜大学で開催する、と理事会において決した。
- 2008年春は学会100年となるため一応東京を想定していると報告されたが、東京に限る必要はないのではとの異論も出された。なお、これに伴い年会の将来像について意見交換を行い、アジア圏のどこかあるいはハワイなど海外での開催は可能性はないのか、外国と共同で開催できないか、予稿集を英語にしたり一部のセッションを英語で行ったりすることも考えられるのではないかと、学会によっては完全英語化したところもあるがその可能性はないか、などの意見が出され、今後継続して検討することとした。

6. その他

(1) 2004年度早川基金選考結果の報告(資料3)

2004年度早川基金選考結果が、前選考委員長である北本理事より報告された。

議 題

1. 2004年度各賞受賞者の決定(資料4)

- (1) 山岡天体発見賞選考委員長より、天体発見賞、天体発見功労賞、および天文功労賞候補の選考結果が報告された。天体発見賞5氏11件、天体発見功労賞3氏4件、天文功労賞1氏1件(長期的な業績)の候補が推薦され、意見交換の後、それぞれ下記のような受賞者が満場一致で決定された。

- 天体発見賞 板垣公一(5件)、串田麗樹(2件)、西村栄男(1件)、高尾 明(2件)、多胡昭彦(1件)の各氏
- 天体発見功労賞 中村祐二(2件)、板垣公一(1件)、櫻井幸夫(1件)の各氏
- 天文功労賞 長期的な業績として武蔵高等学校中学校太陽観測部。なお短期的な業績は今年度は推薦するものはない。

- (2) 研究奨励賞選考委員である須藤評議員より、研究奨励賞候補者の選考結果が報告された。8名9件の推薦のうち3名が候補として委員会により推薦された。受賞のレベルに達していると評価される方が多く、3名に絞るのに苦慮したとの報告が委員会よりあった。意見交換の後、満場一致で下記のように決定された。

- 研究奨励賞 片岡 淳、河北秀世、福重俊幸の各氏

- (3) 林 忠四郎賞選考委員長である佐藤評議員より、林 忠四郎賞および欧文報告論文賞の候補者の選考結果が報告された。欧文研究報告論文賞に

ついては、引用の高い論文は委員長より事前に推薦をお願いする方策を採っているとの報告があった。欧文研究報告論文賞は8件7編の論文、林忠四郎賞は5件の推薦があった。意見交換を行い満場一致で下記のように決定された。

- 欧文研究報告論文賞 Kodaira et al., PASJ 55, L17-L21 および Mineshige et al., PASJ 52, 499-508 の各論文

- 林 忠四郎賞 須藤 靖氏

なお、選考委員会から、林 忠四郎賞に関して、過去の受賞者の例からも分かるように選考にあたっては「独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授ける」(内規第2条)という賞の趣旨に照らして、すでに評価が確立した大分以前の研究業績よりもそれぞれの研究分野での現在の寄与の大きさを重視しているので、とくに今後更なる研究が期待される人材をもっと多く推薦されることを期待したい、という要望が出され、意見交換を行った。委員会からの要望はもともとであり、推薦を募る段階で受賞時の年齢を含んだ過去の受賞者リストを付けた推薦依頼文を出すなどの方法を模索することができるのではないかと、などの意見があった。

2. 2004年度事業報告書案(資料5)

杉山理事より事業報告書案について説明があり、質疑応答の後承認された。なお、PASJは会員から寄託されたもの(76部)を購読料支払いが困難な発展途上国の研究機関などに寄贈している(46部)が、経済社会の発展に伴い購読を依頼すべきところが出てきている可能性に鑑み、寄贈先について再検討が必要ではないかとの意見がだされた。

3. 2004年度決算報告書案(資料6)

関井理事より決算報告書案について説明があり、質疑応答の後承認された。

4. 2004年度監査報告書(資料7)

家監事より、2005年1月6日に実施された監査の結果、上記事業報告書案および決算報告書案が正当であることが認められた旨の説明があり、承認された。

5. 正会員(学生)等の会費見直しについて(資料8)

関井理事より、正会員(学生)と準会員の会費見直し(値下げ)の提案について説明があった。印刷費縮減などの努力の結果ここ最近では学会会計が黒字になっていることに鑑み、黒字分の一部を正会員(学生)会費を13,000円から10,000円へ、準会員会費を8,000円から7,000円に改定して還元するとい

う提案である。この提案に対し、管理費を含む学会財政への正会員・正会員（学生）・準会員それぞれの寄与のあり方を明らかにして正会員会費のみを改訂しない理由を明確にする必要がある、PASJ 投稿料値下げ・学会登壇料値下げや他の事業を起す可能性も検討すべきである、また会費や各種料金の改定にはその影響が一時的なもの、長く影響のあるものがあることにも留意する必要がある、など様々な意見が出された。また、PASJ 投稿料の値下げは学術雑誌の発展方策として重要であるとの観点からも位置付けて欲しいとの意見があった。今回の正会員（学生）会費及び準会員会費の改定提案そのものの方向性については否定的な意見はなかったものの、2006 年度からの会費改定の決定は今年夏の評議員会で決定すれば間に合うことから、理事会で上記の様々な意見を勘案しつつ会費・各種料金の改定及び新規事業の開始等の全体像をまとめて改めて評議員会に提案し、議論することとなった。

6. 会費に関する細則の変更

会費変更案を採択しなかったので審議なし。

7. 日本学術会議会員候補者推薦内規の廃止（資料内規集）

内規の前提となっている学術会議側の会員候補者推薦方法が変更となったことに伴い、現在内規が無意味となっている。昨年場合は、学術会議からの通知で天文学会は候補者 8 人の情報を連絡するのみとなったため内規に従う候補者決定は不可能となり、理事・評議員による選挙の結果に基づいて 8 名の候補者の研究者情報を学術会議に通知した。このことにもとづき杉山理事より内規そのものを廃止することが提案され、承認された。なお、候補者推薦につけられた付帯条件により必ずしも得票の上位者を推薦できたわけではなかったことについて、理事長名で候補者選考委員会委員長宛に改善の要望書を送付した。

8. 春季定期総会の議題等

春季定期総会の議題として、事業報告案と決算報告書案、監査報告、その他若干の報告事項を予定していることが杉山理事より報告され、承認された。

9. 会費未納者の除名について（資料 9）

杉山理事より資料にもとづき説明があり、承認された。

10. 創立 100 年事業 WG の立ち上げについて

春季定期総会の議題として、事業報告案と決算報告書案、杉山理事より創立 100 年事業 WG の立ち上げの説明があった。既に進んでいる 100 周年記念出版とは別に、あらたな事業としてひとつは天文学

会 100 年史のようなものを考えており、尾崎洋二氏に編纂のとりまとめをお願いすることについて内諾を得ており、また記念切手を出すという案については若松前理事長・黒田副理事長が担当する。その他、記念式典＋シンポジウム、月報 100 年記念号といった案がある。これら事業の検討・推進の活動を行っていくワーキンググループを理事長・副理事長、杉山理事、尾崎元理事長、若松前副理事長で構成することが報告された。月報を用いて 100 年事業を広報すべし、という意見という意見もあった。

11. Asian-Pacific Journal について

杉山理事より経緯の説明がされた。Asian-Pacific Journal の刊行が検討され始めており、日本の参加も期待されているが、とりえず蜂巢 PASJ 編集長と有本 PASJ 編集顧問がこれに関するワーキンググループには参加することになっている。まだ未知数の部分が多いため、状況を見て見つつ理事会が慎重に対応していくこととなった。学会としては PASJ は柱となる事業であり、むしろもっとアジア圏からの投稿を呼び込めないか、日本人ももっと PASJ に投稿する努力をするなど PASJ の地位向上などができないか、という議論があった。

12. その他

(1) 科研費実績調べについて

家評議員より、科研費に代表される外部資金がどのように配分・獲得されているかは研究現場にとって切実な問題であり、学会としてその実績を把握しておくことが重要であるので、学会として実績把握のための作業ができないか、という提案があり、意見交換を行った。基礎データの蓄積が重要であることには異論がないが、学術振興会からの公表情報で間に合わないのか、学会のマンパワーの実情では誰が何をどのように担当するかを決め難い、物理学会では科研費審査員が学会員に獲得実績について報告する義務を設けている、等の意見が出されたが、具体的な結論を得るにはいたらなかった。

(2) インド洋での津波災害関連

本年 Asian-Pacific IAU Regional Meeting がインドネシアのバリ島で開催が予定されているが、スマトラ沖大地震によりインドネシアで大災害が起きている状況下で本当に予定通り開催できるのか、また学会としてインドネシアへの支援の動きはあるのか、等が話題になった。情報がなく詳細が不明であるため、評議員から Regional Meeting の日本人 SOC メンバーを通じて正式に問い合わせをすることとなった。

(3) 次回以降の日程

次回は3月29日(火)、春季年會会期中の昼休み明星大学で開催する。

次々回は7月9日(土)、国立天文台にて開催する。

2005年2月23日

議長 小杉健郎 ㊟
署名人 観山正見 ㊟
署名人 須藤 靖 ㊟

秋季年會企画セッション募集

年會実行委員会から、2005年秋の札幌(札幌コンベンションセンター)での年會における企画セッション募集です。

企画セッションは世話人制です。通常では一つのセッションに入らない(複数セッションにまたがってしまう)話題について、タイムリーで有意義な議論を行うためのものです。通常のセッションより柔軟な構成が可能です。提案される方(採用時には世話人となる、二人以上が望ましい)は、この説明全体をご一読の上、下記の要領でお申し込み下さい。

記

企画セッションの申込先と問い合わせ先:

年會実行委員会 企画セッション担当 中本泰史
(committee2005@nenkai.asj.or.jp)

締め切り: 2005年4月1日(金)午後5時

申し込み内容:

- セッション名
- 趣旨(簡潔に)
- 世話人の氏名・所属・連絡先

以上

申し込まれた企画は、企画セッションの趣旨に照らし、年會実行委員会で検討した後、理事会で採否を決定します。内容の重複や年會全体の運営などを考慮し、内容や割当時間の調整をお願いすることがあります。ご了承ください。

世話人には企画セッションの運営・準備全般に関わっていただきます。具体的な手順は次の通りです。

- (1) 世話人は企画に相応しい講演者を決める。また tennet などを通じてセッションを紹介し、他の講演も募る。
- (2) 講演申し込みが全て集まったら、それらの発表形式(口頭、口頭+ポスター、ポスター)と講演

時間を決める。口頭講演のうちレビュー講演(末尾の補遺を参照)は(30-40)分の講演割当も可。他の口頭講演も必要に応じて若干の時間変更可。但し発表形式や割当時間の変更の際は、該当発表者に了承を得る。確定したら、指定された宛先・期間に年會実行委員会に申し込む。

- (3) 年會全体のプログラム確定後、座長を決める。

企画セッションの講演申し込み手順は、通常セッションと異なります。世話人がセッションの全講演予稿をまず集め、プログラム確定後、一括してそれらの登録を行います。その詳しい作業手順や日程、プログラム上の制約については、採用決定後に世話人にお知らせします。

良い企画をふるってご応募ください。お待ちしております。

中本泰史(年會委員企画セッション担当)

百瀬宗武(年會実行委員長)

(補遺) 企画セッションのレビュー講演(r)について
口頭講演のうち一部をレビュー講演として指定することができます。『r講演』という特別なカテゴリに分類します。その講演者は、同一年會中に別にa講演も行うことができます。r講演者の料金は、以下のように扱います。

- 学会員: r講演も通常の講演と同じ扱いで講演登録費を支払う。
- 非会員: 企画セッション r講演に関わる参加費・講演登録費に限り免除。

r講演は1企画セッションあたり数件まで(原則2件以内)で、認定には年會実行委員会の承認が必要となります。

編集委員会より

天文月報では、天文学に関する書籍の会員による書評を募集しております。天文学会に寄贈された書籍のリストは天文月報のホームページに載せておりますので、書評を書いてみたい本がありましたら、編集部(geppou@asj.or.jp)までご連絡ください。編集委員会で検討の上、本を送らせていただきます。なお、書評が掲載されましたら、本は書評を書いていただいた方に寄贈いたします。なお、天文学会への寄贈図書以外の書評も随時受けて付けております。

(天文月報編集委員会)

訂 正

2005年3月(第98巻3号)136頁に誤りがありました。訂正してお詫び致します。

1992 3K 宇宙背景放射の“ゆらぎ”

誤) 電波/地上 正) 赤外/宇宙

1995 主系列星まわりの惑星

誤) 赤外/地上 正) 可視/地上

1995 褐色矮星の発見

誤) 可視/地上 正) 赤外/地上

2005年3月(第98巻3号)210頁「2004年度日本天文学会各賞について」の欧文研究報告論文賞に間違いがありました。訂正してお詫び致します。

誤) 論文: Slim Disk Model for Soft Excess and Variability of Narrow-Line Seyfert 1 Galaxies, PASJ vol. 52 (2000), pp. 499-508

正) 論文: Slim-Disk Model for Soft X-Ray Excess and Variability of Narrow-Line Seyfert 1 Galaxies, PASJ vol. 52 (2000), pp. 499-508

和田桂一(編集長), 今西昌俊, 亀野誠二, 齋藤正雄, 寺田幸功, 濤崎智佳, 戸谷友則, 洞口俊博, 増田 智, 矢野太平
平成17年3月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2005年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)